



ごみ減量へ！  
がんばる  
自治体

SDGs 未来都市・日野  
ごみゼロ社会を目指して  
～市民とともに～

東京都日野市 環境共生部 ごみゼロ推進課長 高尾 満

## 1 日野市のご紹介

日野市は、東京都の多摩地域に位置し、都心から35kmの近郊にありながら、多摩川と浅川の一級河川、多摩丘陵や多くの湧水、用水路などを有し、都市的な活動と豊かな自然環境の両面を併せ持っているまちです。そのため、多くの市民が環境への関心を高く持っています。

ごみ処理行政については、大きな改革として「第1次ごみ改革」（ごみ処理有料化 平成12年10月）と「第2次ごみ改革」（プラスチック類ごみの資源化 令和2年1月）、また可燃ごみの共同処理（令和2年4月）を実施しています。

## 2 日野市のこれまでの取り組み

### ● 第1次ごみ改革

「第1次ごみ改革」では、ごみ減量を目的に「ごみ処理の有料化」に取り組みました。

それまでは、無料でいつでも誰でも排出できるダストボックスによる収集方式であったこともあり、多摩地域において不燃ごみ排出量とリサイクル率がワースト1となり、抜本的な改善が必要な状況でした。そのため、ダストボックスによる収集方式から、排出者と排出量を明確にできる指定収集袋による有料戸別収集方式への変更を実施しました。

市民の理解を得るために市長を先頭に、説明会を600回以上実施しました。その結果、ごみ改革後の平成13年度の一人一日当たりの総ごみ排出量は841gとなり、ごみ改革前の平成11年度と比べて201gの減量に成功しました。その後も、総ごみ量は減少し続けて、令和2年度の一人一日当たりの総ごみ排出量は632g、全国の人口10～50万人未満の都市でベスト2位となっています。（令和3年度は、コロナ禍以前の616gまで減少）

### ● 第1次ごみ改革をきっかけに実施してきたさまざまな取り組み

#### ①「マイバッグ運動」（レジ袋有料化の推進）

平成20年度に、使い捨て製品の象徴である「レジ袋」の有料化に向けて、市民・事業者・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を発足しました。

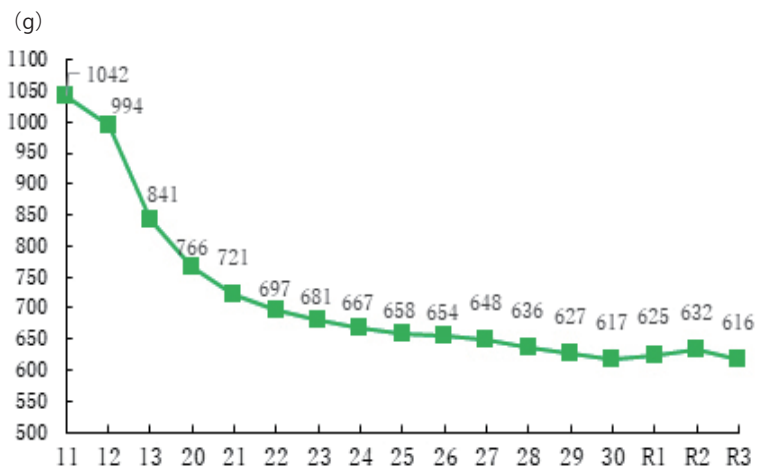
この会議では、5月、10月を「マイバッグ持参強化月間」と定め、スーパーマーケット等の協力のもと店頭でのぼり旗を立て、市民と行政でマイバッグ持参を呼びかけるなどの啓発を実施してきました。

長年にわたるこの取り組みは、環境省の「みんなで減らそうレジ袋チャレンジ」において、自治体・団体部門で優秀賞をいただきました。



#### ②「容器包装お返し大作戦」（拡大生産者責任の追及）

「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」では、平成21年度から「容器包装お返し大作戦」（ペットボトルやトレーなどを買ったお店の店頭回収に返す運動）も展開してきています。





改めて拡大生産者責任を問うもので、「マイバッグ運動」と合わせて、「買い物は行きも帰りもマイバッグ」を合言葉に、行きはマイバッグにPETボトルやトレーを入れて買った

お店の店頭回収へ、帰りはマイバッグ使用でレジ袋を買わない行動を推進するものです。

### ③ ダンボールコンポストの普及啓発活動

平成14年に市民による「ひの・まちの生ごみを考える会」が発足し、平成20年に「生ごみリサイクルサポーター養成講座」の参加者を中心に、日野市に「生ごみリサイクルサポーター連絡会」が発足しました。

以降、主に竹パウダを使った「ダンボールコンポスト」の開発、普及・啓発の活動を行っており、最近ではzoomを活用したオンライン講習会を導入するなど、時代に合った創意工夫を取り入れながら普及啓発を行っています。

## ● 第1次ごみ改革から第2次ごみ改革へ

可燃ごみの共同処理施設の建設に伴い、焼却ごみ量の削減を目的に、取り組みが遅れていたプラスチック類ごみの資源化に着手することを決定しました。

令和2年に第1次ごみ改革から20年が経過し、また、「プラスチック類ごみ全量（プラスチック製容器包装と製品プラスチック）の資源化」、「日野市、国分寺市、小金井市の三市による可燃ごみの共同処理」がスタートすることを契機として、もう一度、市民とともに「ごみ減量」の機運を盛り上げ、さらなる「ごみの減量」、「資源化率の向上」を図っていくことを目的に「第2次ごみ改革」に取り組んでいくこととしました。

## ● 次のステップへ ～ごみゼロ社会を目指して～

日野市では、ごみ改革をさらに推進するため、新たな取り組みを進めています。

### ① 「レジごみ袋」の実証実験

(令和4年9月から令和6年3月まで)

「レジごみ袋」は、マイバッグを忘れた時やマイバッグに入りきれない買い物をした時などにレジ袋代わりに使える新たな市の指定収集ごみ袋です。レジ袋を断り、指定収集袋として活用できる「レジごみ袋」を購入することで、プラスチック袋が2枚から1枚に半減し、環境負荷の軽減を図るものです。

明星大学デザイン学部生によるレジごみ袋



のデザイン及び販売促進の提案を取り入れ、市内に店舗を有するイオンスタイル多摩平の森と市内のセブン-イレブン店舗において、レジごみ袋を販売しています。

なお、産官学連携での指定収集袋のデザイン・販売は全国初の取り組みとなります。

### ② 粗大ごみリユース実証実験事業

「ジモティースポット日野」の開設

(令和4年9月から令和5年3月まで※延長検討中)

市で収集した粗大ごみやクリーンセンターに持ち込まれる粗大ごみは、年間約1,500tあり、その中には、まだ利用可能な品物も含まれています。

日野市では、常設の「リサイクル事務所」や「ひの市民リサイクルショップ回転市場」などで、不用品のリユースに取り組んできました。

しかし、さらなるごみ減量に向けて、民間企業のノウハウを活用したリユース事業の方策を検討するために、令和4年7月から株式会社ジモティーと協定を締結し、「リサイクル事務所」内に「ジモティースポット」を設置して、ごみの減量および収集経費の削減などの財政効果の検証を行っています。



### ③ 日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会の発足

従前より、市民や事業者とともに「ごみ減量推進市民会議」など、さまざまな取り組みを進めてきましたが、これらの組織の再構築を行うとともに、第3次日野市ごみゼロプランに定める施策の進行管理について、幅広い見地から意見を求め、効果的かつ着実に推進するため、令和3年10月に「ごみ減量・リサイクル等推進協議会」を設置しました。

学識経験者、事業者委員（清掃事業者、販売事業者）、市民委員（公募市民、学生、市民団体）、行政職員と、学生も加えて年齢的にも属性的にも幅広い委員構成が特徴です。

## 3 おわりに

第1次ごみ改革以来、日野市は市民や事業者の協力を得ながら諸力融合で様々な取り組みを実施してきました。

ご紹介した取り組み以外にも、賞味期限前の余っている食品の回収を行う「フードドライブ」常設窓口や、提供を行う拠点の「フードパントリー」の公共施設への設置、「ウォータースタンド」(給水スポット)の設置なども実施していますが、「ごみの減量」や「資源化率の向上」は市民の皆様の理解や協力、そして行動があってこそ。これからも、市民の皆様と力を合わせてごみゼロ社会の実現に向けて努力していきたいと思っております。